



自宅まで笑顔で商品届けます

利用者宅に中島商店街の商品を配達する「なかしま朝市便」。中島商店会のこの取り組みは、交通手段がなく買い物に行けない人やお年寄りなどから好評です。同商店会の田中治彦会長（中島・62歳）は「新型コロナウイルスの影響で皆さん外出しにくいと思うので、今まで以上に頑張っていきます。」と意気込んでいます。市内であればどこへでも配達可能です。申し込み、問い合わせは、なかしま朝市便 ☎76・3190 まで。

この他、市内の商店街ではお弁当の種類を増やすなど、柳川を元気にしようと新たな取り組みが始まっています。生活に必要な物の買い出しは、地元商店街をぜひご利用ください。

CONTENTS

	ページ
コロナウイルス関連情報	2-3
困りごとは身近な民生委員へほか	4-5
年金、地域おこし協力隊ほか	6-7
まちかどレポート	8-9
子育て掲示板、もちふみデビュー	10-11
お知らせ掲示板	12-17
大河ドラマ、思ひ出写真館	18-19

●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係（直通） ☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.lukuoka.jp/> ●e-mail kouhu@city.yanagawa.lj.jp

「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人から読まれるように、ユニバーサルデザインを導入しています。

柳川探求

No.2

柳川で光り輝く人や魅力的なもの・ことを紹介します。



【上】60年以上続けてきた自慢のイ草畑の中に立つ吉川嘉之さん【左上】ほとんど人力でイ草の生産を始めた当時の苦労を話す吉川さん【左】吉川さんのイ草で作られた「無染土掛川織りい草カーペット白秋」。イ草本来の肌触りと質感を感じることができる

88歳になった今も柳川の伝統あるイ草を生産

吉川 嘉之 さん（大浜町・88歳）

2戸だけとなった生産者

かつてイ草の一大生産地として全国で有名だった筑後地域。市内にも数多くのイ草生産者がありました。しかし、次第に生産者は減っていき、今では2戸だけとなりました。

その1人吉川嘉之さんは、両開地区でイ草をはじめた第一人者。イ草にかける思いは強く、20年ほど市のい業振興会の会長を務め、県のい業部会連合会の会長にもなったほど。88歳になった今でもイ草の生産を続けています。

最盛期は県内で78億円も売り上げ

吉川さんがイ草の生産を始めたのは昭和30年ごろ。当時は昭代地区で盛んにイ草が生産されていて、両開地区での生産はほとんどなかったそうです。「始めたころは全部人力。そりゃ大変だった」と話す吉川さんからは当時の苦労が伝わってきます。

両開地区でのイ草生産は瞬間に広がり、吉川さんは生産者仲間と切磋琢磨して品質を向上させました。昭和60年ごろの最盛期には、県内のイ草だけで

約78億円もの売り上げがあったといいます。「生産者仲間と飲む酒は格別だった」と話す吉川さんからは笑顔がこぼれます。

柳川のイ草にかける思い

平成になると生活様式の変化からイ草の需要が減り、生産者も次第に減っていきました。

現在、吉川さんは有機肥料だけでの生産に挑戦中。最後に「あと何年続けられるか分からないけど、伝統ある柳川のイ草を守っていきたい」と熱い思いを語ってくれました。

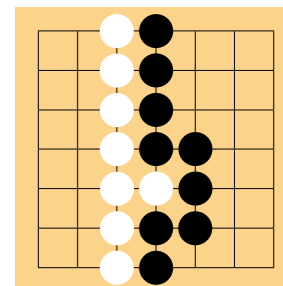
柳川観光大使

大淵盛人九段の次の一手

今、注目の囲碁。その魅力や効能、エピソードなどを楽しく紹介します。とはいえ蒲池小・中学校時代、作文が大の苦手だった私。冷や汗かきかき碁石とペンの二刀流。皆さんどうぞごゆっくりお付き合いください。

【今月の問題】 黑白どちらが勝ちですか。

黑白どちらが広い？



編集後記

ついにこの日がやってきた。いつかはくるだろうと覚悟はしていたが、まさかたった5年で広報に戻ってくるとは。分かっていればデザインやカメラの勉強してたのに。なぜサボっていたんだ俺。編集操作も忘れていたんじゃないか俺。とりあえず、帰ってきたのでよろしくお願ひします。（令和2年5月1日）